

平成21年度第3回薬学教育FD/IT活用研究委員会議事録

- I. 日時：平成21年1月26日（火）15:00～16:40
- II. 場所：私情協事務室
- III. 出席者：松山委員長、黒澤副委員長、山岡委員、齊藤委員、佐藤委員、大嶋委員、梶原アドバイザー、大谷委員（書記）
事務局

議事録

1. 分野別情報教育について

まず、分野別情報教育の検討の趣旨について、事務局長より資料を適宜参照しつつ以下のような説明があった。

本検討では、他分野における「学士力考察」に相当するが、医歯薬系ではコアカリキュラムが制定されていることを受け、その内容をふまえて当該分野においてどのような情報教育（IT技能、知識、アプリケーション活用力、情報の神聖性の判断力、情報源へのアクセス力、情報分析力、情報発信力などの涵養）を展開するか、本年度内をめどに2～3の到達目標とともにとりまとめて、モデルを提案することを目的としたい。その後は、パブリックコメントを募るとともに、来年度以降に開催される分科会においてより詳細な議論をしたい。

続いて、山岡委員より薬学教育における情報教育の現状として、準備教育ガイドラインおよびモデルコアカリキュラム（C15(1),(2)）に関して資料に基づいて説明があった。

委員一同議論の結果、情報を広義に捉えた場合、薬剤師の養成教育はその大半が情報の扱いに関する教育であり、職務内容も本質的には情報の収集、評価、加工、提供に相当するため、本委員会で取り扱うには範囲が広すぎるとの結論に達した。また、それらの教育のうち、知識に関する教育については教科書なども十分に完備しており、改めて私情協においてとりまとめて発信する意義も薄いことから、特に教育現場において試行錯誤の段階にある、「技能や態度」の教育を対象を絞って、情報倫理などに重点的に配慮しつつ、作業を進めるのがよいとの結論に達した。なお、プロダクトが完成した暁には、対象を絞り込んだ経緯などについて、きちんと松山委員長が前書きなどで説明をしていただきたい旨、事務局より強い要望があった。

そこで、特に薬学における情報関連教育の中でも、モデルコアカリキュラム

C15(1) 「医薬品情報」のうち、技能又は態度が関連した SBO を複数検討対象としてとりあげ、それぞれ担当を決め、2 月末までに私情協の様式に従い到達目標 (GIO に相当)、到達度 (SBO に相当)、教育内容・教育方法 (方略に相当)、到達度確認の測定方法 (評価に相当) の案をまとめることとした。なお、必要に応じて関連する D1 の内容が含まれても差し支えないとの意見があった。

各委員の担当は以下の通り。

【情報源】

7. 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。-----松野委員
(ただし、添付文書とインタビューフォーム以外の資料についても包含することとする)

【収集・評価・加工・提供・管理】

1. 目的に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。-----大谷委員
3. 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。-----齊藤委員
4. 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。-----山岡委員
(広く情報倫理について含めるものとする)

【データベース】

2. 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。-----大嶋委員
3. インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。-----黒澤副委員長

【EBM (Evidence Based Medicine)】

4. メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。-----佐藤委員

【総合演習】

2. 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題点を解決するために必要な情報を提示できる。-----松山委員長

2. OTC をテーマにしたシナリオ作りについて

まず、事務局長の提案により、プロダクトの利活用方法についての議論が行われた。その結果、各大学において実習などに著作権 free で使用してもらえるように、協会の WEB サイトからダウンロード可能な形で公開すること、使用した場合には当該 WEB サイトを介して feedback を受け取るようなシステムとすることを決定した。

また、私情協会員である各薬系大学、及び薬剤師会向けに、プロダクトを周知させることとし、そのための案内状を松山委員長が作成することとなった。

引き続き、内容の確認を行った結果、フォーマットの統一を図ること、項目の d. と e. の順序を入れ替えること、具体的な症例を念頭において一つの模範解答を例として示す形式にすること、などの修正点が提案された。具体的な修正のポイントについては、念のため、黒澤副委員長より欠席者などにメールなどで説明することとなった。また、一連のコンテンツの前に、松山委員長が「前書き」を作成することとなった。

3. 分科会委員の選出について

薬学系 FD/IT 活用研究委員会のメンバーから、来年度新たに発足する予定の「情報非専門分野別教育分科会」に薬学系の代表として一名の委員を選出することとなり、一同協議の結果大谷委員を選出した。

4. 次回委員会の開催

次回委員会は 3 月 2 日 14:00～16:00、場所は私情協事務局にて開催することとした。

以上